中原　泉
一枚の写真
⑯

初のＩＵＳＯＨレセプション

「Dick，ユニオンをつくりましょう」

私は，姉妹校であるミシガン大学のR.クリスチャンセン歯学部長に提案した。姉妹校提携だけでは物足りず，姉妹校を縦軸として，各姉妹校を横軸に結ぶユニオンを結成したいと考えた。Dickは，すぐに私の意図を理解し，その場で「International Union of Schools for Oral Health, IUSOH」とメモした。少し思案して，forをofに書きかえた。

当時，まだOral Healthという概念はなかったので，私は，彼の先見性と先進性に括目した。同席の小倉英夫君と相談し，日本語では「口腔保健のための国際姉妹校連合」と命名した。

翌昭和60年（1985年）５月，Dickは再度来校し，本学とミシガン大学はIUSOH結成書に調印した。私たちは，この新しいグループ活動に共鳴する大学に，積極的に加盟を呼びかけることにした。同年10月にパリに飛び，フランス最初の歯学部であるパリ第７大学歯学部と，姉妹校およびIUSOHの調印をした。N.フォレスト歯学部長は，「本学がIUSOHの３校目の加盟校になるのは，たいへん光栄です」と率直に喜んだ。

このIUSOHは新しいスタイルの国際活動として注目され，同12月には，中国最初の歯学部である成都の華西医科大学，翌年３月にスイスの首都校のベルン大学，８月にはイスラエル最初の歯学部のヘブライ大学が次々に加盟した。

平成元年（1989年）６月，アイルランドのダブリンでIADRの開催中，本学主催による初のIUSOHレセプションを催した。私は小倉君に強要されて，生まれて初めてタキシードを着て，白夜の街並みを見わたすホテル会場に加盟校約50氏を迎えた。IADR会長のW. D. マクヒュウ夫妻もみえた。

うろ覚えだが本学からは，須賀昭一，鴨井久一，笹川一郎，奈良陽一郎，沼部幸博，八重垣 健の各氏が出席した。

（写真：午後８時のレセプション，アイルランド特有の驟雨がやむ）